珍布峠（めざらし）ウォーキングコースを歩いてみよう

道の駅 飯高駅から4～7km、1～2時間のお手軽なウォーキングが楽しめる『珍布峠ウォーキングコース』。全体を通して急なアップダウンがなく、誰もが風景や史跡めぐりを楽しめるコースです。小鳥のさえずりや川のせせらぎ、草花の香りを感じて歩いてみませんか。

コースは櫛田川の上流に向かって進む。峠からはなだらかな下りが続く

素掘りの切り通しになっている「珍布峠」。古くはこの大岩の上を越えていたものと思われる

今は人工林になってしまったが、街道であった頃は松並木が続いていたという。辺りに人家が無く、行き倒れになった旅人もあったようで、「死人谷」という名前が残っている

かつて草履や駄菓子を販売する茶屋があった「木戸の一軒家」。ここから先、コースの折り返し点まで人家がなかったという

←境内にある「栴檀」の花。5月末頃、開花する

「水屋神社」は、境内にある天然記念物の大楠で知られる。近年、珍布峠と共に、"パワースポット"としても人気が高い。毎年7月下旬には「お水取り行事」が行われ、春日大社（奈良県）とつながりが深い

珍布峠を越えてすぐのわき道を下っていくと「礫石」が眼下に見える。ほとりにあるのは「礫石の碑」。滝野知雄の歌が刻まれている

櫛田川の中程にある「礫石」。投げた小石が礫石に当たれば男子が、外れると女子が授かるとの言い伝えがある

本ルートに残る唯一の道標。正面に向かうと珍布峠を経て高見峠や高野山方面へ、左折すると霊符山（現在の大台町方面）へ向かう

「花岡神社」は入口正面に大銀杏の木がある。草創は800年以上前と伝わり、宮前という地名の由来となった神社。主祭神は天忍穂耳命（あまのおしほみみみこと）であり、長寿、縁結び、授福などの御利益がある

昔の趣を残す「旅館かどや」。現在は営業していないが、内部には刀掛けや提灯など、かつての営みを彷彿させる物品が残っている（非公開）

道の駅飯高駅から飯高地域振興局前の信号脇にあるのがNo.①の看板。この看板を右手に見て国道を横断

かつては宿場の賑わいを伝える建物がいくつかあった通り

日帰り温泉のある道の駅『飯高駅』。ここで珍布峠ウォーキングコースマップをもらってスタート。ショートコースなら約1時間で巡れる

老人福祉センターの一室にある小津安二郎資料室。所蔵する資料は2千点以上とも。小津監督がまだ代用教員だった頃、勤務した尋常小学校がここにあった

国分け伝説

神代の昔、伊勢の神様である天照大神（あまてらすおおみかみ）が白馬に乗って旅をなされ、現在の飯高町宮前と赤桶の境にある峠（※1）にさしかかられた大神は、「伊勢と大和の国境がどこにあるか知る者はいないか」とお尋ねになられた。すると水屋の森から白髪の翁が大神の前に現れた。

「おや、お珍しい。天児屋根命（あまのこやねのみこと）ではないか」

春日の神である天児屋根命は峠の下を指して、「この下の境ヶ瀬が伊勢と大和の国境でございます」と申し上げた。

この国境に疑問を持たれた大神は、石を川に投げ入れて波のとどまったところを国境にしようと、天児屋根命に持ちかけられた。

大神は、そばにあった大石（※2）を軽々と持ち上げられ眼下の櫛田川に投げ入れられたところ、大量のしぶきが上がり滝のように落下した。

その様から、この辺り一帯を「滝野」と名付けられ、その波が打ち寄せた場所を「加波（かば）」、「波瀬（はぜ）」、「舟戸（ふなと）」などと呼ぶようになった。

結局、大神は「今日のこの日より高見山を国境としよう」とおっしゃり、伊勢と大和は高見山を境に分けられるようになったという。

※1…《珍布峠》　※2…《礫石》

お水取り行事の水は、水屋神社から約1kmのところにあるこの「閼伽桶（あかおけ）の井」から運ばれる

姿見の池は、倭姫命が自分の姿を映して化粧をしたと伝わる小さな池。櫛田川のほとりにある直径5mほどの楕円形の岩のくぼみで、水源がないのになぜかいつも水を湛えている

礫石の東側にある常夜灯。集落の端にひっそりと佇む

珍布峠（めずらし）ウォーキングコース

ロングコース　7.5km　2時間弱
ショートコース　4.5km　1時間強
※ 距離や時間は目安です

伊勢と大和、和歌山を結んだかつての“和歌山街道”。 この旧街道沿いには宿場町の面影をとどめる町並みや石碑、道標などを見ることができます。
珍布峠ウォーキングコースは、その史跡を巡る自然豊かな散策コースです。 アップダウンが少なく、飯高駅から徒歩で約2時間、7.5kmほどの行程です。

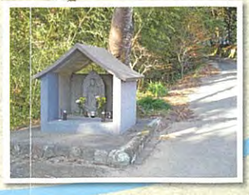
ロングコース
ショートコース
コース案内板
名所・旧跡
観光看板
三重交通バス停

水屋神社の大楠

片町の風景

「トミヤパン」の建物を挟んで、左が珍布峠入口方面、右が花岡神社方面

北畠具教の首塚



和歌山街道
～『国分け伝説』の史跡を巡る～

和歌山街道は、その名の通り松阪と和歌山を結ぶ街道で、主に三重県側のルートのことを指します。この街道は江戸時代、紀州藩主の参勤交代の道として、また伊勢神宮への参詣道として多くの人々が行き交いました。

その和歌山街道の中間辺りに位置するのが『宮前宿』であり、現在は空き家や更地が目立ちますが、江戸時代には本陣が置かれ、国道166号ができる昭和の時代までは旅館や商店が建ち並ぶこの地域のメインストリートでした。

宮前宿から徒歩で30分足らずの場所にあるのが『珍布（めずらし）峠』です。珍布峠は、天照大神（あまてらすおおみかみ）と天児屋根命（あまのこやねのみこと）が出会ったとされる場所で、ここで伊勢と大和の国境を決めたとされます。現在、峠は大岩をくり抜いた切り通しとなっており、ルートはその素掘りの大岩の間を抜けています。

珍布峠の大岩を西側に抜けたところから櫛田川に向かって細い道がありますが、その道を下りていくと目の前の川に『礫（つぶて）石』が見えます。礫石は、珍布峠と併せてこの地に伝わる『国分け伝説』の史跡となっています。

かつてこの街道は幹線道路でしたが、対岸を走る国道166号ができてから人や車の流れが国道へと変化し、周辺の住民も利用することが少なくなって、いつの間にか廃道寸前の状態になっていました。

数年前から地元の住民を中心とした整備が行われ、荒れ果てた道を舗装したり、古くなった案内板を付け替えたり、新しくルート看板を設置したり、植樹をしたりと地道な活動の結果、かつてのような趣きがよみがえりました。

人や車の交通量は古のものとは比較になりませんが、往時を偲び、旅人が行き来した様を思い浮かべながらこの街道を歩いてみてはいかがでしょうか。

道の駅 飯高駅
天然温泉を備える道の駅。レストランや早朝喫茶、販売所、そば打ち体験、公園などの施設もある。
Tel 0598-46-1111

160227